

名古屋大学グローバルネットワーク

国際交流グループ

2015 年度活動報告書



Global Network  
NAGOYA UNIVERSITY

# 名古屋大学グローバルネットワーク

## 2015 年度活動報告書

1. 名古屋大学グローバルネットワーク（国際交流グループ）紹介	1
2. スモールワールド・コーヒーアワー活動報告	3
3. ヘルプデスク活動報告	17
4. ランゲージシャワー活動報告	21
5. 留学のとびら活動報告	26
6. English College	34
7. 異文化交流サークル ACE 活動報告	37
8. NUFSA 名古屋大学留学生会 活動報告	46



## 名古屋大学グローバルネットワーク（国際交流グループ）

名古屋大学ではキャンパスの国際交流を活発にするために  
学生が主体となって様々な交流活動をしています。  
そんな活動を一緒にサポートしてくれる仲間を募集しています。  
学生の皆さんの参加をお待ちしています！

### スモールワールド・コーヒーアワー（Small World Coffee Hour）

コーヒーやお茶を片手にリラックスした雰囲気の中で留学生と一般学生が出会い、文化や学生生活に関することなどを気軽に話し合える国際交流の場を毎月（学期中）に開催しています。楽しい文化交流の場を一緒に作ってくれる仲間を募集中です！

（問い合わせ）国際教育交流センターアドバイジング部門（IB 電子情報館西棟 739 号室）

Email: isa@iee.nagoya-u.ac.jp

URL: <http://acs.iee.nagoya-u.ac.jp/program/smallworld.html>

facebook: [www.facebook.com/meidaicoffeehour](http://www.facebook.com/meidaicoffeehour)

### ヘルプデスク（Help Desk）

各学期の最初の3週間、国際棟のラウンジに設置するヘルプデスクを拠点に、新規来日した留学生へのサポート活動を行っています。また、留学生との交流のきっかけになるようなイベントも企画しています。留学生が気軽に立ち寄れる場を一緒に創ってくれるボランティアを募集中！

（問い合わせ）国際教育交流センター交換留学受入室 NUPACE Office（国際棟1階）

Email: nuhelpdesk.ad@gmail.com

### ランゲージシャワー（Language Shower）

何年も学習している外国語なのに自信を持って使えない、第2、第3の外国語を使いたい、そんな要望に応えるためのプログラムです。間違いを恐れずに話し、聞き、楽しみましょう。

（情報掲載）国際交流センターワークショップ

URL: <http://acs.iee.nagoya-u.ac.jp/program/workshop.html>

### 留学のとびら（Gateway to Overseas Studies）

留学のとびらは、交換留学、語学留学など色々な形の「留学」を経験した名大生による、将来の名大留学候補生をサポートする団体です。毎年の留学フェア、留学相談会を主催、その他留学に関連する様々な企画立案しています。留学は現地に行ってみないとわからない

いことがたくさんです。留学に興味があるけど不安、実際に留学経験者の話を聞いてみたい、という人は是非イベントなどに参加してみてください！また、留学経験を後輩の役に立てたい、という経験者の参加もお待ちしています！

(問い合わせ) 国際教育交流センター海外留学部門 (国際棟 1 階)

Email: ryugakunotobira@gmail.com

URL : <http://ryu-tobi804.wix.com/ryu-tobi-website>

facebook: <https://www.facebook.com/ryugakunotobira/>

## English College

English College は英語を話す機会をすべての人に提供することを目的とした国際教育交流センターの学生サークルです。昼食時に英会話で盛り上がり、英語でディスカッションをしたりと、様々なイベントを定期的開催しています。どの学年からも気軽に参加できます。

(問い合わせ) 国際教育交流センター海外留学部門 (国際棟 1 階)

facebook: <https://ja-jp.facebook.com/nuenglishcollege>

(開催場所) 国際棟 空いている教室で開催しています

(活動日時) 月・水・金のお昼休み

## 異文化交流サークル ACE (Action Group for Cross-Cultural Exchange)

ACE では、「交流・架け橋・ボランティア」の三大理念を掲げ、活動を行っています。毎年 4 月、10 月頃に名古屋大学に来る留学生に対し、入寮のサポートやウェルカムパーティー等を開催したり、他にも 1 年を通じて留学生と一般学生との交流を図るイベントを行ったりすることで、留学生が日本での生活を楽しめるよう少しでも力になりたいと考えています。いつでも誰でもお気軽に参加してください！

(問い合わせ) URL: <http://ace.tuzikaze.com>

facebook: <https://www.facebook.com/Events-of-ACE-293892397287990/>

## NUFSA 名古屋大学留学生会

(Nagoya University Foreign Students Association)

名古屋大学の留学生や一般学生など多様なメンバーで構成されている留学生会です。名古屋大学で学ぶ留学生が楽しく留学生活を送れるようサポートしたり、国際交流イベントを開催しています。参加お待ちしております！

(問い合わせ) Email: [nufsa.nagoya@gmail.com](mailto:nufsa.nagoya@gmail.com)

facebook: <https://www.facebook.com/nufsajp/>

スモールワールド・コーヒーアワー

Small World Coffee Hour

# スモールワールド・コーヒーアワー Small World Coffee Hour

## 2015 年度 活動報告

総合文責:胡安琪

### 1. 団体紹介

Small World Coffee Hour はイベント「Small World Coffee Hour」(以下、コーヒーアワーと省略)を企画・運営する団体である。外国人留学生や日本人学生に新たな出会いと新たな繋がりを作る場を提供することを目的として、2005 年後期に発足した。以後、イベント内容に工夫を凝らし、活動記録のテンプレートを作成して組織運営を円滑化することで、イベントだけでなく組織としての規模も大きくなってきている。2015 年度は、アットホームな雰囲気を中心に楽しく発展することを目標に活動し、広報活動にも力を入れた。また、特別企画プレゼンテーションアワーも行った。

#### 1.1 理念

留学生や一般学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ人たちに、学内での交流の場を提供することを目的としている。それぞれの文化的背景を考慮した上で、誰もが楽しめるイベントが出来るよう心がけている。

#### 1.2 特徴

- ・有志の学生が中心となって活動を行っている。(学部・学年は問わない)
- ・誰でも参加できるようなオープンなイベントを基本的に各学期3回、月に1度のペースで開催できるよう企画・運営をしている。参加者同士が話すきっかけとなるようなテーマやアクティビティを設定している。

#### 1.3 メンバー構成

神谷柚衣 (経済学部経営学科 3 年)  
黒川綜太 (工学研究科 修士 2 年)  
井上美里 (文学部 4 年)  
廣瀬治佳 (情報文化部社会システム情報学科 2 年)  
山本実央 (情報文化部社会システム情報学科 2 年)  
野崎裕貴 (G30 経済学部 2 年)  
清美樹 (工学部物理工学科 4 年)  
佐藤裕子 (医学部保健学科 4 年)  
岩崎絵里加 (経済学部 2 年)

木下悟 （農学部応用生命科学科 3 年）  
胡安琪 （教育学部発達科学研究科 研究生）  
森下実佐都 （情報文化学部 3 年）  
太田貴都 （農学部生命農学研究科 修士 1 年）  
中山清香 （教育学部 4 年）  
澁谷大輔 （情報分科学部 4 年）

## 2. 活動紹介

### 2.1 活動について

#### ■ミーティング

週に 1 度（毎月 3～4 回）の頻度で行い、企画シートをもとにして、その月のコーヒーアワーのテーマや内容、役割分担、会場のレイアウトなどを決めている。各ミーティングでは、議事録を作成し、メーリングリストで流して情報を共有している。

#### ■広報活動

各イベントのポスターを、各学部および研究科・国際教育交流センター・生協・食堂などに掲示した。また、留学生相談室から学内の留学生担当者に依頼し、イベント告知のメールを流してもらった。さらに、新しく Facebook ページを作成した。Facebook ではイベント前日に更新することでイベント周知を図った。

### 2.2 コーヒーアワーについて

#### ■当日の動き(目安)

15:30 国際棟給湯室にてコーヒーを準備  
16:00 会場で企画シートにそって設営開始  
16:15 受付開始  
16:30 イベント開始  
18:00 イベント終了、片付け  
18:30 振り返りミーティング

#### ■本年度の工夫点

文責：井上美里

今年度は 6 月に名大祭フリーマーケット、6 月と 12 月に特別企画であるプレゼンテーションアワーがあったため、前期は 4 月、5 月、7 月、後期は 10 月、11 月、1 月にイベントを行い、負担を分散した。ルーティーンになりがちな各回のアクティビティも、利き茶、お正月の遊び、映画鑑賞など日本の要素を多く取り入れることで留学生の人気を集めることができた。4 月・10 月の学期初めのイベントはフレンドリー南部で行うという形式も定着してきた。また、

イベント中スタッフが事務的な作業に従事してしまい、参加者との交流がなかなかできていないとの昨年度の反省があったので、スタッフも積極的にアクティビティに参加するよう努めた。広報では、イベント1ヶ月前からFacebookの更新をするようにし、新たにNUPACEのLINEグループなども利用してイベントを周知した。

### 3. 年間行事記録

#### 【4月コーヒアワー うそつき自己紹介】

文責：清美樹

日時・場所： 4月24日（金）16:30-18:00 @フレンドリー南部

参加人数：約80人

#### イベント概要

新学期恒例となっているイベントの1つであるうそつき自己紹介を実施した。自己紹介シートには5項目ほど欄があり、参加者はあらかじめ自分の紹介文を書きこむ。その際に1つだけ嘘の紹介を書き込む。その後、自由に他の参加者と交流し、自己紹介シートをもとに自己紹介をし合う。話した人の名前を自己紹介シートに書き込み、嘘の紹介が分かったら名前の隣にチェックを入れる。自己紹介シートは英語と日本語の両方を用意し、日本人と留学生の両方が参加しやすいよう工夫した。自己紹介文は、出身、趣味、好きな食べ物という初対面でも話しやすい内容を3つと、自由記入欄を2つ用意した。また、新学期最初のイベントということで大人数の参加が予想されたので、国際棟の1階ラウンジではなくフレンドリー南部で実施した。

#### 実施した感想

新学期最初のイベントということで予想した通り参加者が多かったため、フレンドリー南部で実施して良かった。新スタッフも多く参加してくれたため、スタッフも参加者として雰囲気作りができ、賑やかな様子であった。新学期最初のイベントとして恒例となっているがマンネリ化することもなく、誰でも気軽に楽しめるイベントだと思った。

#### 気づいたこと（改善点など）

日本語カフェも同日に行われていたため、留学生の参加者が少なかった。イベントの開催日は他のイベントとかぶらないように配慮したり、メーリングリストなどで事前にリマインドしたりすることが大事だという教訓となった。

#### 【5月コーヒアワー 利き茶 & 利きコーヒー】

文責：野崎裕貴

日時・場所： 5月28日（木）16:30-18:00 @国際棟1階ラウンジ

参加人数：約50人

### イベント概要

いろいろな種類のコーヒーやお茶を楽しみながら参加者同士で話してもらおう。途中からコーヒーやお茶に関するクイズを出し、話すきっかけを作った。そして終盤に名大ブルーグラスサークルの方々に演奏をしてもらい、音楽とコーヒーアワーを融合した。

### 実施した感想（振り返りミーティングより）

参加者の人数とスペースの広さがちょうどよく、後半には参加者は馴染んでおり、初めて参加した人も話せていた。また、利きコーヒーということで、コーヒーの味がバラエティに富んでいてよかった。そして、途中のコーヒーやお茶に関するクイズは良いテーマの誘導になった。最後に、ブルーグラスの演奏がよかった、という声が聞かれた。このように、生の音楽があると良いと分かった。

### 気づいたこと（改善点など）

始まりの人数が少なかったので、Facebook などを通して一週間くらい前からリマインドを行うなどの宣伝をする。同様に、宣伝も兼ねて場所取りの紙に“Coffee Hour で使います”と書いたり、宣伝ビラを留学生在がよく見るヘルプデスクの机や国際教育交流センターの入口の壁に貼ったりするなど広報の工夫をする。

### **【6月 名大祭フリーマーケット出店】**

文責：黒川綜太

日時・場所：6月5-7日 @名大祭

### イベント概要

コーヒーアワー、ヘルプデスクなどの国際交流グループが中心となって名大祭で開催するフリーマーケット。開催日の1週間ほど前から国際教育交流センターで物品を募集し、名大祭で販売する。売り上げは国際交流グループの活動資金となる。

### 実施した感想

国際交流グループならではのグローバルな物品が多く集まり、お客さんの興味を引くことができた。逆に日本の伝統的なものもあり、外国の方も多く買ってくれた。非常に暑い中での実施だったが、みんなで協力することで多くの商品を売ることができた。

### 気づいたこと（改善点など）

声掛けがもう少し積極的にできるとよかった。商品を渡すための袋を多めに用意しておくべきだった。

## 【6月コーヒーアワー特別企画】

文責：井上美里

### 「第2回プレゼンテーションアワー ～世界が広がる22秒～」

日時・場所：6月26日（金）16:30-18:30 @国際棟1階ラウンジ

参加人数：50人程度

#### イベント概要

コーヒーアワーの特別企画として、昨年度12月に行ったプレゼンテーションのイベントを今年度も開催した。プレゼンターは22枚のスライドを1枚につき22秒で話し、全体で8分4秒を使いプレゼンを行うという特殊な形式を採用した。今回は学生プレゼンター6名が登壇し、そのうち3名が日本語で、残りの3名が英語でプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションのテーマについては完全に自由となっており、プレゼンターはそれぞれ、趣味や取り組んでいる活動などについて話をした。本イベントでは、プレゼンターが自分の活動や興味を発信し、オーディエンスがそうしたプレゼンターの活動や考え方を知ることによって、参加者全員の世界を広げていくことを目標としていた。また、プレゼンターとオーディエンス、もしくはオーディエンス同士がプレゼンテーションを通して交流を深めることも目的としていたため、プレゼンテーションの間の休憩時間を長く取り、参加者が会話をしやすいようにしていた。また、コーヒーやお菓子を用意し、会場のレイアウト、照明、休憩時間に流れる音楽などを工夫することで、参加者がくつろぎながら話ができるような雰囲気を作り出した。

#### 実施した感想

第二回目とあって、イベント形式は固まっていたため前回よりは楽に準備を進めることができた。2名は公募によるプレゼンターであり、プレゼンテーションアワーの知名度が上がってきているのを感じられた。今回も、アカデミック、エンターテインメント共に様々なトピックが集まり、留学生が日本語でプレゼンを行うなど充実したイベントとなった。学生のプレゼン技術も高く、来場者からの評判も非常に良かった。

#### 気づいたこと（改善点など）

今回はゲストを呼ばず学生プレゼンターのみで行った。うち4名が留学生だったため、多くの留学生がイベントに集まってくれた。一方で一般学生が少なかったため、よりよい宣伝・集客方法を考えたい。また、日本語と英語のプレゼンが混ざっているため、日本語がわからない留学生には内容を把握するのが難しいと考えられた。プレゼンに言語補助を付けるべきかどうか検討する必要がある。イベント後に行った懇親会では、予想が外れほとんどプレゼンターとスタッフしか残らなかった。前回と違いゲストスピーカーがいなかったためなどの理由が考えられるが、今後は懇親会の方式も工夫する必要がある。



TIME	PROGRAM	PRESENTER	TITLE	LANGUAGE
16:30~16:40			OPENING	
16:40~16:55	Presentation Time D1	太田貴都 OHTA Takato	名古屋グランパス Nagoya Grampus~The Professional Soccer Team in Nagoya~	JAPANESE
16:55~17:10		カンボン・ヴァイオレット CAMBON Violette	言葉のないコミュニケーション Non Verbal Communication	ENGLISH
17:10~17:20			Coffee Break	
17:20~17:35	Presentation Time D2	ファン・ソミ HWANG Somi	韓国はPSY だけじゃない Korea: We're more than just Psy	JAPANESE
17:35~17:50		ブレブ・エンキー PUREV Enkhee	日本の世界遺産 Unesco World Heritages in Japan	ENGLISH
17:50~18:00			Coffee Break	
18:00~18:15	Presentation Time D3	中井遼介 NAKAI Ryojue	ホテルはどうしては光るのか~その光の意味~ Why do Fireflies Glow? "Meanings of Light"	JAPANESE
18:15~18:30	Guest Presenters	エフエンディ・ リンダメリア・イズマ EFFENDI Rindamelia Izma	貧困層の子どもたちのための科学・工学機関 Science and Engineering Institution for Unprivileged Kids	ENGLISH
18:30			CLOSING	
19:00~20:00			懇談会 / Closing Party	

## 【7月コーヒーアワー のんびり映画鑑賞会】

文責：黒川綜太

日時・場所：7月10日 16:30-18:00 @国際棟1階ラウンジ

参加人数：30人

### イベント概要

今回はテスト前ということで、参加者にリラックスしてもらえそうなゆったりした企画にした。会場の半分では“となりのトトロ”を上映し、もう半分ではカルタを行い、参加者が好きな方を自由に楽しめるようにした。

### 実施した感想

ほとんど参加者にお任せだったが、各々交流をし映画を楽しんでくれた。カルタは外国の方が積極的に読み手になって盛り上げてくれた。日本語の勉強にもなるのでよい機会だったと思う。映画は昔ながらの日本の建物が出てくるところで外国の方が興味を持って見てくれた。

### 気づいたこと（改善点など）

映画は途中から来た方だと楽しめないため、だんだんと人数が減ってしまった。いつ来ても楽しめるようにするというのが大切だと感じたが、たまにはこういうのんびりしたイベントもリラックスできてよいと思った。

## 【10月コーヒーアワー 自己紹介ビンゴ】

文責：岩崎絵里加

日時・場所：10月30日（金曜日）16:30-18:00 @フレンドリィ南部

参加人数：約60人

### イベント概要

ゲーム開始前に5×5マスのビンゴシートに書かれた質問に回答し、開始後に答えの一致する相手を探して相手の名前をマスに記入するというゲームを行った。名前が記入されたマスが一行揃えばビンゴとして、速くビンゴを達成した人には景品を贈った。質問内容は「兄弟・姉妹はいますか?」「何か国に旅行した経験がありますか?」といったもので、シートの質問をきっかけに会話することで互いの自己紹介ができるようになっていた。

### 実施した感想

参加者の所属については、日本語・日本文化研修留学生が多かった。また、全体的に初めてイベントに参加してくれた人が多く、参加者同士が積極的に交流する姿が印象的だった。会話に夢中になる人が多く、他の回と比べてお菓子や飲み物が減るスピードがゆっくりだったようにも思えた。運営面については、普段と異なる会場を使用したが、会場の元のレイアウトを生かしてイベント用のレイアウトを組んだので、片付けが容易であった。

### 気づいたこと（改善点など）

景品がすぐになくなってしまったため、景品を贈る条件をもう少し厳しくすべきだと感じた。また、ビンゴは会話のきっかけとしては良かったが、ルールが曖昧でゲーム性に欠けていた。今後この企画を行うときはルールを見直して、受付でルール説明をしたほうが良いと思った。10月のイベントはNUPACE主催のハロウィンパーティーと日程が重なってしまったため、NUPACEの学生の参加が少なかった。他の国際交流イベントとの日程被りには気を付けたい。



## 【11月コーヒーアワー ゲームをしよう】

文責：神谷柚衣

日時、場所：11/27（金）16:30-18:00 @国際棟1階ラウンジ

参加人数：50人程度

### イベント概要

さまざまなゲームや遊びをするのがテーマで、こま、かるた、あや取り、折り紙、ジェンガを行った。

### 実施した感想

すべてのゲーム、遊びにまんべんなく人数がいて、全体としてちょうどよい人数であった。日本のゲームや遊びは日本人が手本になることができ、普段積極的に話しかけられない人や初めてきた人も外国人との交流のきっかけにすることができた。

### 気づいた点

あや取りとこまのやり方を英語で説明するのが難しかったので、スタッフがもう少し事前練習などをして手助けできたらよかった。駒は広いスペースを要するので、スペースをもっと確保すべきだった。



## 【12月コーヒーアワー特別企画】

文責：井上美里

### 「第3回プレゼンテーションアワー ～世界が広がる22秒～」

日時・場所：12月5日（金）16:30-19:00 @国際棟1階ラウンジ

参加人数：60人程度

## イベント概要

コーヒーアワーの特別企画として、昨年度12月から行っているプレゼンテーションのイベントの第3回目を開催した。プレゼンターは22枚のスライドを1枚につき22秒で話し、全体で8分4秒を使いプレゼンを行うのがルールである。今回はゲストスピーカー1名と学生プレゼンター6名が登壇し、そのうち4名が日本語で、残りの3名が英語でプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションのテーマについては完全に自由となっており、プレゼンターはそれぞれ、趣味や取り組んでいる活動などについて話をした。本イベントでは、プレゼンターが自分の活動や興味を発信し、オーディエンスがそうしたプレゼンターの活動や考え方をすることで、参加者全員の世界を広げていくことを目標としていた。また、プレゼンターとオーディエンス、もしくはオーディエンス同士がプレゼンテーションを通して交流を深めることも目的としていたため、プレゼンテーションの間の休憩時間を長く取り、参加者が会話をしやすいようにしていた。また、コーヒーやお菓子を用意し、会場のレイアウト、照明、休憩時間に流れる音楽などを工夫することで、参加者がくつろぎながら話ができるような雰囲気を作り出した。

## 実施した感想

今回、学生プレゼンターは全員公募で集まり、来場者数も過去最大となった。第1回目から続けて参加してくれている学生もおり、本イベントの知名度が格段に上がったことを実感した。英語と日本語のバランスを取るため、必要に応じて単語リストを配布し、登壇者にもスライドでの言語フォローをお願いした。司会者による通訳も細かかったこともあり、両言語とも観客の理解が深まって質疑応答が非常に活発化した。雰囲気や参加者からの評判も非常に良く、スタッフやプレゼンターとして次回から参加したいという声も複数あり、コーヒーアワーのように長く続くイベントになりそうだと期待できた。

## 気づいたこと（改善点など）

今回は公募開始と共に続々と応募者が増え、定員オーバーするほどとなった。結局、プレゼンター数名にキャンセルが出たため、応募してくれた学生全員が登壇することができたが、今後は登壇者の選定を視野に入れて、公募の時期ややり方を見直す必要がある。他にも今回プレゼンターとのやりとりの中で問題がいくつか発生したので、全体的にスケジュールを見直した方が良い。これまで3回分の企画スケジュールをまとめ、企画マニュアルを作成したので、スケジュール見直しや企画の円滑化に役立てたい。また、来年度は活動できるスタッフがほとんどいなくなってしまうので、スタッフ確保が課題となっている。



☆TIME TABLE☆ Date: Dec. 4th, 19:15:00~19:30  
Place: 国際総合交流センター 4F Lounge

TIME	PROGRAM	PRESENTER	TITLE	LANGUAGE
16:30~16:40	OPENING			
16:40~16:55	Presentation Time 01	久保田 彩乃 KUBOTA Ayano	Planetary Health "責任ある消費者として生きるという選択" Planetary Health "Taking Ownership as Human Beings"	JAPANESE
16:55~17:10		ヘルマワン キム Hermawan Kimp	インドネシアの教育運動 Teaching Movement in Indonesia	ENGLISH
17:10~17:20	Coffee Break			
17:20~17:35	Presentation Time 02	西澤 薫 NISHIZAWA Kaoru	人は自分の中に惑星を持っている Everybody has their own Planet in the Mind	JAPANESE
17:35~17:50		森 雅典 MORI Masanori	ケニアでの大冒険を終えて After a great Adventure in Kenya	ENGLISH
17:50~18:00	Coffee Break			
18:00~18:15	Presentation Time 03	田中 卓 TANAKA Taku	成功例には嫉妬が湧き、失敗例には賢者が集う"下っ端から見たコクピット" Successes assemble Jealousy, Failures assemble Wisdom	JAPANESE
18:15~18:30		アリザ アントニー Ariza Anthony	なぜ私たちは脳を研究するのか Why We study our Brain?	ENGLISH
18:30~18:45		<ゲスト / Guest> 天川 伊織 AMAKAWA Iori	「しくじり先生」: IT から地域おこしへ Turning Point in my Life -from Engineer to "civilic" Engineer-	JAPANESE
18:45~19:00	CLOSING			

プレゼンターの顔、写真やビデオの撮影をしております。映りたくないという方は受付までお伝えください。  
During the event, we are going to take a video or photo. If you mind, please let us know at the reception.

現在、次回のスタッフを募集しています。  
詳細は本日のスタッフまで!



## 【1月コーヒーアワー JAPAN HOUR】

文責：木下悟

日時：1月21日（木）16:30-18:00 @国際棟 1階ラウンジ

参加人数：40人ほど

### イベント概要

お茶を複数種類（煎茶、ほうじ茶、玄米茶、荳煎茶、紅茶、ハーブティー）用意して利き茶コーナーを設置しお茶を楽しんでもらった。交流のアクティビティとして福笑いとかるたを用意し、普段のお菓子に加えて駄菓子をを用意し日本の遊びを楽しんでもらう企画。

### 実施した感想

利き茶と駄菓子は留学生たちに日本の普段買わない食べ物や飲み物が食べられると好評だった。カルタはアクティビティとして盛り上がることが多いが、今までカルタで遊んだことない人でも少しやっているところを見ると理解できるみたいだった。テスト週間の時期であっ

たため、一般の日本人学生が少なかったが、木曜日であったために6限がある留学生たちがたくさん来てくれた。

#### 気づいたこと（改善点など）

人数が比較的少なかったためにお茶の説明とともに会話が楽しめたことがよかったと思うが、お茶の消費量が少なかったので大量に余ってしまった。福笑いはそんなに人気はなかったが、カルタはルールがわかりやすらしく人気だった。ただ、絵カルタと比べて、ことわざカルタのようなものは難しすぎたようであった。お菓子を分散させたために人の流れが妨げられなくて良かった。今回のテーマは比較的色々な遊びができて留学生にとっても貴重な機会を提供できたと思う。

#### 4. コーヒーアワーで大切にしていること・来年度への抱負

■ 今年は留学から帰ってきて後期からの参加でした。国際交流が盛んになってきているとはいえ、イベントに来てくれる人の中にはまだまだ自分から積極的に交流できない人も多くいました。自分ももっと気軽に自然に多国籍の友達を作りたい、留学中にそんな場が充実していたらよかったな、と思った経験があるので、そうした自然な交流ができる場を作り上げていくことをこれからも目標にしていきたいです。（神谷）

■ Coffee Hour で大切にしていること：今年度は、参加者の皆さんが主体となって交流を深めていけるように心がけました。例えばゆったりとした企画を多くする、あまり細かく指示をしない、といったことに気を付けていました。来年度への抱負：今年で卒業なのでCoffee Hour は最後ですが、ここで培った“参加者の立場に立った考え方”“語学力やコミュニケーション力”などを社会人になっても生かしていきたいです。（黒川）

■ コーヒーアワーでは誰もが楽しめるシンプルな企画をすることを大切にしています。イベントだけでなく毎週のミーティングの雰囲気も和やかで、自分にとっても元気の出る場となっています。来年度も温かくオープンな雰囲気を大事に、さらに進化したコーヒーアワーを作っていきたいと思います。（井上）

■ 後期からスタッフとして参加した coffee hour でしたが、温かい、いい意味で緩い雰囲気のチームでとてもいい印象だったのを覚えています。この coffee hour らしい良い雰囲気を壊さずに、誰でも手軽に参加して楽しい一時を過ごせる、そして温かい気持ちになれる coffee hour がつくれるよう来期からも頑張りたいと思います。（廣瀬）

■ 留学生にイベントを楽しんでもらうのはもちろん、自分自身もとても楽しむことができスタッフとしてのやりがいを感じました。なによりランチミーティングを通じて、先輩方と親睦を深める時間もとても楽しく、もっと積極的に仕事をしていきたいと思うようになりました。来年度もこのいい雰囲気を保ちつつ、より充実したイベントを運営できるよう頑張っていきたいです。(山田)

■ 実はまだ授業の関係でイベントに全く参加していません。しかし、企画運営や設営に携わらせてもらってコーヒーアワーの魅力を常に感じていました。来季こそはイベントに参加したいと思っています。(野崎)

■ 参加者誰もが温かな気持ちになれる、ホッとできる、来てよかったと思えるようなイベントにできるよう、少しでも力添えしたいと思いながら企画・運営に参加していました。スタッフという立場ではありましたが、アクティビティを共有することで、より楽しく交流することができました。今年度10月からの参加で、もう卒業という短い期間でしたが、素敵な方たちと出会い、素敵な経験ができて大変嬉しかったです。これからも、参加者・スタッフの笑顔が自然に溢れてくるようなイベントを作ってほしいと思います。(佐藤)

■ イベントが始まるまでは、参加者が来てくれるか、楽しんでもくれるか、少し不安もありますが、始まるといつも楽しいので、コーヒーアワーは好きな場所です。(岩崎)

■ コーヒーアワーでは誰もがふらっと参加できるような雰囲気とゆっくりとお茶やコーヒーを飲みながら過ごすことの出来るようなイベント運営を心がけています。来年度もたまたまイベントを知った人がふらっと参加できるコーヒーアワーを作っていけたら、と思います。(木下)

■ 本年度でコーヒーアワーに参加し始めて2年がたちました。今年、個人的にはプレゼンテーションアワーに特に注力し、2回とも素敵な会に出来たと思っています。コーヒーアワーも毎回ゆったりとした空気でコミュニケーションを楽しむことができ、大好きな時間です。来年は卒業前の一年となりますが、来年度もこの空気感を大切にリラックスする時間を楽しみたいと思います。(森下)

■ 本年度の後期からの参加でしたが、スタッフの皆さんがやさしくフレンドリーに接してくれてとても楽しく企画のミーティングや設営に携わらせていただく事が出来ました。月に1度のイベントもオープンな雰囲気で参加者としてもスタッフとしても素敵な時間を過ごせ

ました。来年度も来てくれる方々がコーヒーを飲みながらリラックスした雰囲気の中で、国際交流を楽しめるような場を作っていきたいと思います。(胡)

■ 誰でも自由に楽しく国際交流ができるコーヒーアワーをより楽しいものにするために自分自身も楽しみながら活動できました。これからもゆるゆると楽しく続けていきたいです。(清)

■ 今年初めて参加しました。スタッフとして参加ですが、毎回楽しく過ごすことができました。みんなで作るCHという雰囲気がとてもあり、運営も楽しくできました。ありがとうございました。今年で卒業なので、来年のCHに対して一言「留学生と気軽に交流できる楽しい会なので、ずっとCHをつづけていってください。」(澁谷)

ヘルプデスク

Help Desk

# ヘルプデスク 2015年度活動報告

文責 藤原弘貴

## 1. 団体紹介

ヘルプデスクは名古屋大学の交換留学プログラムである NUPACE の交換留学生の学生生活を支援するための留学生支援団体である。新規受け入れ留学生を対象とした春・秋の年2回の入寮手続きの補助や学期開始から約1か月間、留学生からの質問・相談への対応を行っている。また、留学生の要望や所属メンバーの提案に応じて日本人学生と交換留学生の交流のためのイベントを開催している。

この団体の特徴としてメンバーの学年、専攻に多様性があり、語学力に関係なく留学生の生活を支援したい、留学生との交流をしたいという意欲のある学生が多いことが挙げられる。

## 2. 活動理念

留学生にとって最も身近な存在となり、日々の交流やイベントを通してお互いの文化や考え方、そして共通の思い出を共有し、名古屋大学に留学してよかったと心から思ってもらえるように日々の活動に努める。

## 3. 活動報告

### 2015年度年間活動

3月	入寮支援（受け入れ）準備、ヘルプデスク説明会
4月	受け入れ、通常デスク、お花見パーティー
6月	名大祭フリーマーケット、花火大会
9月	後期受け入れ入寮準備、ヘルプデスク説明会、受け入れ
10月	通常デスク、ハロウィンパーティー

### ○受け入れ（前期・後期）

NUPACE 交換留学生の入寮先である名古屋大学国際嚶鳴館の1階ロビーにて窓口を設け鍵、書類の受け渡しを行う。留学生の買い物に付き添う買い物ツアー、初日の夕食を学食と一緒にする夕食ツアーを合わせて行う。以下に詳細を記す。

#### ・入寮手続き補助

日時：2015年4月2日と3日（前期）

2015年9月24日と25日（後期）

場所：名古屋大学国際嚶鳴館ロビー

嚶鳴館入寮学生の入寮・入学手続きの補助を行う。部屋の鍵の受け渡し、オリエンテーション期間の日程の説明と入学手続きのため、寮から NUPACE オフィスへと誘導。嚶鳴館自治会学生及び東山レジデンスの受け入れを担当する異文化交流サークル ACE と連携。

- ・買い物ツアー

日程：2015年4月2日、2015年9月24日

場所：八事 AEON

生活必需品を備えていない留学生の当面の生活で必要となる食料・日用品の購入のため、寮の近くのショッピングモールを案内。

- ・夕食ツアー

日程：2015年4月2日、2015年9月24日

場所：ダイニングフォレスト

自炊環境が整っていない初日の夜に、大学の食堂で共に食事をし交流する。

- ・ウェルカムパーティー

日程：2015年4月3日、2015年9月25日

場所：名古屋大学国際嚶鳴館1階ロビー

日本に来て間もない留学生に日本人学生、及び他の留学生との交流の場を設け、充実した留学生活、寮生活の第一歩としてもらう。

### ○通常デスク

日程：2015年4月6日～、2015年10月2日～の約一ヶ月

場所：国際教育交流センター1階ロビー

新学期開始後の約1ヶ月間、国際教育交流センターのロビーにある HELPDESK にて留学生の質問・相談に対応した。授業が行われる建物や教室の場所、履修登録の手続き、部活動・サークルへの参加の案内などの質問があった。どの時間帯も最低一人は待機するように心がけたが、1限開始前などはメンバーが集まらないことがあったので、シフトを決めて活動することを検討したい。また、この期間中は週1回ミーティングを行い。質問された内容を共有し回答ができるようにした。

### ○お花見パーティー

日程：2015年4月19日

場所：鶴舞公園

30名ほどの留学生と日本人学生が参加し、持ち寄ったお菓子や屋台の食べ物を食べながら花見と交流を楽しんだ。満開の桜に喜んでもらうことができた。

### ○名大祭フリーマーケット

日程：2015年6月6日、7日

場所：名古屋大学 第二グリーンベルト

コーヒアワーと合同でフリーマーケットを行った。各国際交流団体で出店物品の提供をお願いし、売上より団体の活動資金を獲得することができた。団体間の連携も取れ、活動の幅を広げることができたので今後も継続していきたい。

### ○花火大会

日時：2015年6月26日

場所：砂田橋駅近くの河川敷

毎年恒例となっている行事で、花火を扱うことのできない国の留学生には特に楽しんでもらえた。当日は30人ほど参加し、後片付けまでしっかりと行った。

### ○ハロウィンパーティー

日時：2015年10月31日

場所：国際教育交流センターロビー

100人以上の学生が参加する、後期最大のイベント。コスチュームコンテストを行い、気合の入った個性的な仮装を楽しむことができた。お酒の提供時には年齢確認を徹底して行いルールを守って全員が楽しめる会とした。参加者の数が多く、受付の業務が大変だったので来年からはシフトをしっかりと決めて、メンバー自身もパーティーに参加できるようにしたい。

## 4. 反省及び今後の目標

今年度も NUPACE オフィスと連携し、受け入れ活動や各種イベントを成功させ、留学生と日本人学生の交流を促進することができた。全体の反省点として主要な活動メンバーが固定化されていることが挙げられる。今後は留学生と身近に交流ができるこの団体の良さを広く伝えていくとともに、他の国際交流団体と更なる連携を取っていくことで留学や国際交流に興味のある名大生の参加を増やしていきたい。

ランゲージシャワー

Language Shower

# Language Shower ランゲージシャワー

## 2015 年度活動報告書

### 学生スタッフ構成

ファシリテーター 近藤貴文 (工学研究科)  
言語サポーター ODHIAMBO Peterson Owino (国際言語センター)

### ランゲージシャワーについて

プログラムとしての背景：

外国語でのコミュニケーションに「自信がない」、「自分にはレベルが高すぎる」と感じ、国際交流プログラム、外国語で開講されるプログラムへの参加に踏み込めない人がある。また、第二外国語として勉強してきた人や、留学を経験した人が習得した言語をもっと使いたいと、その機会を探している場合もある。そのため、誰もが気軽に参加でき、“間違っても良いから、とにかく外国語で聞き、話し、ディスカッションする”場を提供できないかと、2007年度に留学生センター（現国際教育交流センター）ワークショップの“世界の言語・文化を学ぶ”において、外国語を使って楽しむセッションが開催された。2008年度から、引き続き同ワークショップの一環として提供されているが、プログラム名を「ランゲージシャワー」とし、学生が主体でセッション企画、運営及び実施を行うものとなった。

特徴：

参加者を、使いたい同じ言語で小人数（4～5名以下）のグループに分け、出来るだけその言語だけを使ってゲームに挑戦したり、身近で話しやすいテーマで会話を楽しんだりする。各グループには、会話を盛り上げるなど、コミュニケーションを助ける役割の学生ファシリテーターが1名以上加わる。

学生ファシリテーターは、プログラムの企画、運営、実施を行なうが、各言語レ

ベルは問わず、参加者と一緒に言語を練習しながらコミュニケーションを楽しむことができる。また、グループでの役割だけでなく、セッション全体の司会・進行にも挑戦できる。

一般参加者には、使いたい言語の基礎知識を有していることが条件となっている。セッションは、参加者の言語レベルにもよるが、主に「中級に達しないレベルの人が挑戦できる」内容のものを用意し、中級レベルでの学習を終えている参加者には、他の参加者のコミュニケーションを助ける役割を担ってもらうことを期待している。

また、可能である限り、その言語を母語とする、あるいは得意とする学生をプログラムの「言語サポーター」として講師依頼し、分からない／間違っている単語や表現を直してもらう。

授業ではないので、リラックスして、間違っても良いから、発語を繰り返すことで自信をつけ、同じ言語でも、癖、使う言葉に違いがあることに気づき、それを楽しんでもらう。

## 2015年度の活動について

企画運営において活動者数が少ないこともあり、後期のみ、英語を練習する小さなグループを形成することを目指した。広報は、個別にプログラムへ問合せのあった学生や、国際交流に興味のある学生が登録できるプログラムのメーリングリスト内でのみおこなった。

### ★活動日時

11月9日 14:45-16:15 国際棟 #206N (参加人数 8名)  
トライアルセッション What is Language Shower?

11月16日 14:45-16:15 国際棟 #301 (参加人数 5名)

11月30日 14:45-16:15 国際棟 #301 (参加人数 3名)

12月7日 14:45-16:15 国際棟 #301 (参加人数 4名)

### ★活動内容

最初はトライアルセッションとして、ゲームを取り入れた自己紹介を行い、

2回目以降は、自然発生的な話題について意見交換したり、自身が好きな有名人の紹介をするなどした。

★学生スタッフ（活動者）の感想、要望

様々なゲームを通して、楽しみながら英語を話すことができ、とても楽しかった。言葉は相手に自分の考えや思いを伝えるものなので、相手を思いやって言葉や話し方を選ぶことが大切だということを感じた。少人数だったので和やかな雰囲気ですべて活動できて良かった。ぜひもっとたくさんの人にも参加してもらいたい。

The Language shower was a very interesting opportunity for me to meet other students and just talk in English without worrying about anything. I got to learn some Japanese words as well and made very good friends. My favorite meeting was when we made presentations about the famous people we liked. I really learnt a lot from the experience.

ランゲージシャワーのような、英語力に自信のない人でも参加しやすいような活動は必要だと思う。英語がある程度話せるようになれば、学内の他の活動（例えば English College の Lunch English Discussion）にどんどん参加していくと思うが、ランゲージシャワーのような、その入口になるようなものがあるといいと思う。もう少し回数が増えれば、半期でも話せるようになったと実感するくらい英語力が伸びると思う。

留学生の中にも、日本語や英語をもっと使う機会が欲しい、いろいろな人と交流したいという人が多くいると思う。例えば2時間のうち前半は英語、後半は日本語で行うランゲージシャワーがあると、日本人も留学生もお互い言語を学び、教え合うことができると思う。ランゲージシャワーや Lunch English Discussion は留学生が少なく、日本語 cafe は日本人が少ないようなので、日本語を学びたい人も英語を学びたい人にとっていい活動になるかと思う。また、言語教育に興味のある学生や教員にサポーターをしてもらえると良いと思う。自身の在学中に立ち上げてみたかった・・・。

★次年度以降の活動について（プログラムコーディネーターによる付記）

外国語習得を希望する学生は多く、学内において学生個々の活動や、図書館、部

局のコーディネートによる言語プログラムが展開されている。ランゲージシャワーは、それらの入口としてのプログラムと位置付けている。

しかしながら言語プログラムとしての企画・運営の難しさや、人的資源不足は否めない。2016年度は従来の学生活動はいったん休止するが、国際教育交流センターの“世界の言語・文化を学ぶ”セッションの一つとして提供の可能性を残しながら、学生による自主的な企画、運営再開を期待し検討していきたい。

留学のとびら

Gateway to Overseas Studies

## 留学のとびら

### 2015 年度 活動報告書

(文責: 岩月大器、村瀬明里、村瀬裕太)

#### 留学のとびらについて

留学のとびらは、名大生の留学支援を目的とした、名古屋大学海外留学室公認の学生団体である。名古屋大学の各種留学プログラムの中でも特に、一学期間以上の長期留学である交換留学のための支援を主な活動内容としている。実際に名古屋大学の留学プログラムに参加した留学経験者や、将来的に留学をしようと志している名大生によって運営されている。多様なバックグラウンドを持つメンバー同士で、交換留学生を増やすために留学のとびらとしてできることを活発に話し合い、企画を立て、海外留学室に相談し、実行に移すといった自律的かつ活発な姿勢が団体の特徴である。

#### 留学のとびらの理念

1. 世界を知り世界に通用する名大生の輩出
  - 留学を希望する名大生に、情報収集の場を提供し、また留学を検討していなかった学生にも留学の魅力を伝え、多くの名大生の留学のきっかけになる支援をしていく。
  - 将来的に世界に向けて活躍する名大生の育成の機会へ繋げる。
  - 名古屋大学から派遣される交換留学生の量と質の両方の向上に取り組む。
2. メンバーの個性とリーダーシップの発揮
  - メンバーの一人一人が個性とリーダーシップを発揮し、互いの成長を刺激し高め合う
  - 多様な価値観を相互に尊重し合い、メンバーの大学生活の充実を支える笑顔あふれる団体であり続ける。

#### 留学のとびらの活動対象と活動内容

留学のとびらとして取り組んでいる5つの活動対象とそれぞれの活動対象に対する活動内容を次ページの表に示す。

## 2015年度の活動

活動対象	定義	活動内容
① 留学予備軍	留学に興味があるが、まだ準備など具体的な行動をしていない人。(留学についてまだ知らない人も含む)	留とび出張ランチ
② 準備組	留学のための情報収集など準備を始めている人。海外留学室や留とびに相談に来てくれた人。	留とびアワー・ランチ 海外留学フェア
③ 内定組	秋派遣・春派遣で交換留学行きが決まった人。	オリエンテーションでの出張プレゼン
④ 留学組	現在留学をしており、海外にいる人。	留とびブログ
⑤ 帰国組	交換留学を終えて、帰ってきた人。	留とびブログ サブメンバーリスト

留学のとびらのスタンスとしては、①～⑤のうち、各メンバーが取り組みたい活動にそれぞれ担当者を割り当ててリーダーシップを発揮してもらい、年々新たな活動を生み出している。

### 設立の経緯と活動

2009年に留学より帰国した学生が設立した「留学のとびら」は、2015年で設立7年目を迎えた。(2010年より主要メンバーが卒業・進学等で団体運営が困難になったため海外留学室が主体となり、2010年12月に新たにメンバーを募集して再設立) 留学のとびらの特徴として、半年ごとにメンバーの大半が入れ替わることが挙げられる。半年を単位として、留学の際の渡航、留学からの帰国、就職活動、卒業等が繰り返され半年ごとに雰囲気は新しくなる団体である。メンバーの流動性の高さゆえに短期間で関係を構築する高いコミュニケーション能力が必要とされる。2014年度には就職活動のスケジュール変更もあり、上級生で代表役を回すことができなくなったため新たに加入した2年生を代表に据えるなど新たな動きもあったが、新代表始め2年生等下級生の活躍でこれまで通りに順調に運営できた。最近では1年生から留学のとびらに入る人が続出しており、留学が差し迫っていない人にとっても留学のとびらに入ることの様々な魅力が増していることを裏付けている。

## メンバーについて

- 2015年度の終了時点でのメンバーは27名である。(学部生と大学院生を含む)
- 前期代表：村瀬明里
- 後期代表：村瀬裕太

## ミーティングについて

- 週に1度、1時間～1時間30分程度。学期が始まる前の長期休暇中にメンバーの都合の良い曜日と時間を集計し決定する。
- 今後のイベントの企画・相談(留とびアワー・ランチ・留学フェア等)
- 実施したイベントの反省

## 2015年度前期 実施イベント

### 「名大生のための海外留学フェア」

概要：今回で9回目の実施。留学から帰国した人の新鮮な体験談など留学を振り返りつつ留学の全体像を留学志願者に伝えることが目的。今回は、様々な国や大学からの帰国者の経験談を聞きに、50名ほどの名古屋大学生が参加。

日時：6/24(水)15:00-18:00

場所：ベンチャービジネスラボラトリー

リーダー：村瀬明里 サブリーダー：中條裕基

内容：パネルディスカッションとフリートークの二部で構成。

### <一部：パネルディスカッション>

#### パネリスト

1. アメリカ 加藤優(文学部)
2. 香港 植手淑乃(文学部)
3. オーストラリア Ho Chui Ping(G30)
4. イギリス 高木若菜(工学部)

#### 質問内容

1. 留年するかどうか、またそのことに関する意見
2. 語学試験について
3. 留学前にしておくべきこと

4. 留学中の失敗談
5. 留学について
6. どんな授業を受けたか
7. 留学を通して自分の何が変わったか

<二部：フリートーク>

派遣地域ごとに分けてブースを作成。留学経験者と留学に興味のある人が自由に会話する機会とした。

反省

- ・ イベントの告知が十分に行き渡っていなかった。各種告知方法(ポスター、ビラ配り、海外留学室メーリングリスト、Facebook、授業前告知等)を担当者や役割分担を一元管理して各種告知方法での達成度を共有する仕組みが必要。



海外留学フェアの様子

「留とびアワー・留とびランチ」

2014年度からの取り組み。毎週木曜日のお昼時間(12:10-12:50)にテーマを決めて開催。留とびアワーはプレゼン形式で、これから交換留学を目指す人の為に、どのように留学準備を

行えるか、留とびメンバーの実体験を基に説明した。テーマは、時期や需要に合わせて各回ごとに設定した。留とびランチは、座談会形式を取り、各テーブルごとにテーマに合わせた留学志願者の個別の相談に乗る機会としている。

5/7(木) ランチ 「留学に関すること全般」

5/14(木) アワー 「英語の勉強方法」

5/21(木) アワー 「シラバスの調べ方」

5/28(木) アワー 「授業の選び方」

6/4(木) ランチ 「面接についての相談会」

6/11(木) ランチ 「 留学経験者との相談会」

6/18(木) ランチ 「留学経験者との相談会」

6/25(木) ランチ 「留学経験者との相談会」

7/2(木) ランチ 「語学試験対策を中心に」

7/9(木) アワー 「留学中の休暇の過ごし方」

### 「出発前オリエンテーションでの出張プレゼン」

海外留学室主催の留学内定者へむけたガイダンスにおいて、留とびメンバーが留学に対する心構えなどについて経験談やアドバイスを交えてプレゼンを行った。

反省：

留とびアワー、留とびランチともに、参加人数が事前に把握できておらず、せっかく準備してきたのに参加者が2～3名しか集まらないといったことも多かった。一つ一つの活動に対する費用対効果を上げるべく、告知方法・告知担当者・参加者人数等の管理はエクセルを使用するなどして一元管理するなど管理の工夫が必要。海外留学室と連携を深め、より一層広報に力を入れる。

他には、プレゼン内容とニーズの不一致や留学経験者との個別話し合いで事足りるのでアワーの必要性低いというケースもあるので、より充実した足を運ぶ価値のあるコンテンツの提供をしていきたい。

### 「留とびブログ」

概要：2014 年度から始まった取り組み。留とびメンバー一人一人が順番でブログを更新し、留とびホームページと留とびフェイスブックページ上にアップしていく。

内容：各メンバーの留学した国や大学に関すること、語学の勉強方法など

## 2015年度後期 実施イベント

### 「留とびアワー・留とびランチ」

2014年度からの取り組み。毎週木曜日のお昼時間(12:10-12:50)にテーマを決めて開催。留とびアワーはプレゼン形式で、これから交換留学を目指す人の為に、どのように留学準備を行えるか、留とびメンバーの実体験を基に説明した。テーマは、時期や需要に合わせて各回ごとに設定した。留とびランチは、座談会形式を取り、各テーブルごとにテーマに合わせた留学志願者の個別の相談に乗る機会としている。

10/8(木)留とびランチ「秋派遣留学の応募に関する質問会」

10/15(木)留とびアワー「志望校選びのポイント」

10/22(木)留とびアワー「履修の仕方・シラバスの見方」

10/29(木)留とびアワー「留学経験を帰国後どのように活かすか」

11/5(木)留とびアワー「秋派遣志望書の添削」

11/12, 19(木)留とびアワー「秋派遣面接の練習」

11/26(木)留とびアワー「GLOBAL NETWORK 合同説明会」

12/3(木), 12/10(木), 12/17(木)留とびランチ「出張留学相談会」

反省：

前期の反省を活かして広報を徹底して行うことを意識した。イベントごとにビラ、Facebook、HPを用いて必ず告知するようにしていた。その結果、11/5(木)留とびアワー「秋派遣志望書の添削」、11/12, 19(木)留とびアワー「秋派遣面接の練習」では一定の集客を得ることができた。だが、それ以外の回は前期同様満足な集客は得られなかった。このことから、広報の方法だけでなく、テーマのニーズについても正確に検討する必要があると考えられる。

11/26(木)留とびアワー「GLOBAL NETWORK 合同説明会」は、GLOBAL NETWORKの紹介と知名度の向上を意図に行われた初の試みであった。内容は、各団体の代表が活動についてのプレゼンを行うというものであった。GLOBAL NETWORKが合同で活動を行い、連携を深めるという意味では意義はあった。しかし、集客力の不足のため、本来の目的の達成度は不十分であった。

12/3(木), 12/10(木), 12/17(木)留とびランチ「出張留学相談会」は、普段IEECで行っている留とびランチを全学教育棟の学生ホールで行うという初の試みであった。趣旨は、IEECに入ることに抵抗のある学生や、興味の程度が薄い学生でも気軽に相談できる場を提供するというものであった。結果は、学生から訪ねてくることはほぼなく、こちらから声をかけて数人話を聞いてくれるという程度であった。

### 「留学準備オリエンテーションでの出張プレゼン」

海外留学室主催の留学内定者へむけたガイダンスにおいて、留とびメンバーが出発までの準備や心構えについて経験談やアドバイスを交えてプレゼンを行った。

### 「立命館大学留学支援団体まいるとの代表スカイプ会議」

11月に立命館大学留学支援団体「まいる」の代表中道彩さんと留学のとびらの代表、村瀬裕太が村山先生を交えて、スカイプを通して意見交換を行った。互いの活動内容や、広報の方法、組織運営の仕方や抱えている問題などについて話し合った。今後活動を行っていく上で、参考になる部分が多く、とても有意義なものであった。

### 「東海教育改革フォーラム in 東海 2016 ポスターセッション出展」

3月12日（土）に「学生主体の留学支援活動」をテーマとして、「東海教育改革フォーラム in 東海 2016」のポスターセッションにポスターを出展した。当日は、海外留学室の村山かなえ先生、岩城奈巳先生とともに、村瀬裕太、宗宮駿介が参加し、訪れた大学関係者の方々に団体の活動について説明を行った。改めて団体の活動を振り返るとともに、第三者からの評価や意見、アドバイスを得られる貴重な機会として非常に意義のあるものであった。

### 「公式ロゴ作成」

知名度の向上を目的にロゴを作成した。右は、留学のとびらの正式なロゴである。今後は SNS やポスターなどに積極的に利用していきたい。



### 来年度の抱負

来年度の抱負としては以下の二点があげられる。

一点目は、留学のとびらの知名度の更なる向上である。来年度には、設立八年目を迎えるが、団体としての知名度は、決して高いとは言えない。今後も、より多くの名大生に留学の魅力を伝えていくためにも、知名度の向上のための更なる取り組みが必要である。

二点目は、安定した団体としての組織づくりである。今までの留学のとびらの傾向として、業務が代表を中心とした、一部のメンバーに偏ってしまうという問題があった。また、業務の引継ぎも、大きな課題であった。そこで、来年度は安定した組織づくりをテーマに掲げ、部門制度の充実を図り、各メンバーが責任をもって業務にあたるようなシステムを作っていく。また、各部門ごとに業務マニュアルを作成し、引継ぎの課題も解消する。

English College

# English College Annual Report in 2015

Written by Motoki Murakami,  
M1 in the Graduate School of Mechanical Engineering

## 1. Members

Motoki Murakami (an M1 in the Graduate school of Mechanical Engineering)  
Yoshino Uete (a junior in the School of Letters)  
Tamami Katsu (a junior in School of Education)  
Sai Bin (a junior in the School of Engineering)  
Maiko Mitsuya (a senior in the School of Informatics and Sciences)  
Yosuke Sumi (a junior in the School of Informatics and Sciences)  
Kenji Takada (a sophomore in the School of Engineering)  
Akira Kishimoto (a freshman in the School of Engineering)

## 2. Activities

### • Lunch English

Day and time: lunch time(12:10-12:50) every Monday, Wednesday  
and Friday

Venue: Mainly in Room 207W in IEEC

Content: About 10 participants sit around tables randomly and have a chat in English while having a lunch. There will be a wide variety of topics. We sometimes have a talk about news, sometimes about private life or each major. The atmosphere is very informal and we can spend a lunch time enjoying English conversation.

## 3. What English College has provided for people here in Nagoya University

English College was established in spring, 2013. As an open “English speaking” event, Lunch English has been popular among those who seek an opportunity to speak English. Such opportunities have been offered by many other English conversation clubs, but these opportunities are usually only for a few members, so our main purpose is not only to offer the opportunity to speak English but also for all participants to enjoy fun speaking English together. Therefore we

talk about a lot of things with members whose major and grade are different. We are able to have a fun time together and make our activities so meaningful.

#### 4. Problems

We have some problems around our activities. First of all, it is very difficult to give every participant an enough time to speak English. There are many kinds of people and their English levels are different. That is why it is inevitable that high level English speakers will speak more. The best way to solve this problem is to make groups according to their English level. However, one bad thing about this method is that it is hard to confirm the English level of all participants. We have to come up with some new ideas.

Secondly, we cannot share information with all members. When I posted a message on English College's Facebook page about the temporary venue change, only a few members can see my message and so few members join activity on that day. So I think we have to solve this problem as soon as possible.

Thirdly, the relationships among some participants are not so good. Some people don't like to talk with some specific participants. Since Lunch English is open to everyone, people naturally like or dislike talking to some specific people and when they dislike, this leads to reluctance of some people in joining us.

#### 5. Conclusion

It's been difficult to make a good environment of speaking English. Some people could get benefits from our activities, others just felt stressed or bored and stopped coming. We are still not sure if it is really possible to have an idealistic place to communicate in English. There might be a lot of problems or troubles during this activity, but I am sure we can learn precious experience thorough this activity. In fact I could learn the way how to think about speaking and studying English or about wild variety of majors. As long as somebody takes charge of English College, we would like to continue our activities. We can learn a lot of things from every participants.

異文化交流サークル ACE

Action Group for Cross-Cultural Exchange

異文化交流サークル ACE  
2015 年度 活動報告書

1. ACE とは

文責 形田怜央菜

《活動概要》

私たち ACE (Action group for Cross-Cultural Exchange) は、「交流・架け橋・ボランティア」を 三大理念に掲げ、新しく名古屋大学を訪れた留学生の新生活をサポートすることを主な活動とするサークルである。留学生をはじめとし、日本人学生まで対象にした交流イベントも 1,2 ヶ月に 1 回程度のペースで企画・運営している。普段は週 1 回、月曜の夜にインターナショナルレジデンス 東山の会議室をお借りしてミーティングを行っている。ACE は、留学生を支援し、日本人学生と留学生の交流を促進することを目的として 1988 年 6 月に全国に先駆けて結成された。

《組織編制》

毎年 6 月にある「まじめ合宿」で代替わりを行っており、2015 年 6 月からは 28 代(主に 2 年生)が中心となり運営している。28 代の役職は、代表 1 名、副代表 2 名、会計 1 名、広報 1 名、AFSA 班(月 1 回行われる AFSA (愛知留学生会) 会議に参加し、AFSA が主催するイベントの運営に携わり、サポートを行う役職)4 名、ACE メール(他団体や ACE への参加希望者からの連絡が届くメール)・メーリングリスト(ACE メンバーへの情報共有のために一斉送信されるメール)担当 2 名、ホームページ担当 2 名、One Drive(イベントのマニュアル等を共有しているクラウド)・議事録メーリングリスト(毎週のミーティング後にその日の議事録をメンバーに知らせるメール)管理担当 1 名で構成されている。

各イベントの運営は毎回立候補によって決まったチーフ・サブチーフが行っている。名大のみならず、南山大学、金城学院大学、椋山女学園大学、名城大学等の近隣の大学からもメンバーが集まっており、全体の人数も年々増加傾向にある。

《2015 年度年活動概要》

- 4 月 受け入れ活動、新歓活動
- 5 月 受け入れ活動、5 月企画
- 6 月 まじめ合宿、水鉄砲遊び(雨天中止)
- 7 月 七夕企画、ボール遊び(雨天中止)
- 8 月 木浦大学短期留学生との交流、キャンプ、富士山登山
- 9 月 受け入れ活動
- 10 月 受け入れ活動、ハロウィンパーティー

11月 紅葉ライトアップ鑑賞、11月企画

12月 留学生の夕べ、クリスマス企画

1月 正月企画、柳橋中央市場散策

2月 スキー、ナガシマ探索

3月 新歓活動、お花見、春企画



## 2. 2015年度 ACE 活動報告

### 受け入れ活動(4月、10月)

文責 金子直可

名古屋大学には4月と10月のはじめに留学生が入学する。そこで、わたしたちは年二回、留学生に向けて受け入れ活動を行っている。

入寮サポートでは、東山、山手、妙見、桜山の4つの寮のお手伝いをする。スムーズな案内ができるよう、当日までに、説明する内容や寮の設備を書いたマニュアルを作成し、さらに勉強会を行って当日の流れや注意事項を確認する。当日は、前回までにでた反省や勉強会の経験を活かしながら、新しく来た留学生に案内をする。はじめに入寮に必要な書類記入のサポートをし、生活上の注意事項等を説明、その後部屋へ案内して、電化製品の使い方や周辺施設の説明を行う。毎回4つの寮をお手伝いしているため、人手不足から留学生1人にかける時間が少なくなり、説明不足になりやすい。今後は、必ず伝えなければならないことをピックアップして、説明漏れがないようにするなどして、効率よくサポートしていきたい。

わたしたちは入寮サポートのほかにも、留学生に楽しんでもらえるようなイベントもいくつか企画している。

キャンパスツアーは、留学生に名古屋大学内を案内するものである。いくつかのグループに分かれて行動するので、留学生と日本人の交流も深まり、これをきっかけに留学生と仲良くなることも多い。しかし、時間が短いことや、わたしたちの知識不足で留学生からの質問に答えられないこともあり、今後改善していく必要がある。

また、受入支援の一環として、春と秋に NUFSA と共催でバザーを開催している。生活に必要な物品を、低価格で購入できるので留学生には大変人気である。バザーは、ACE 単独で行うものではなく、名古屋大学留学生会 (NUFSA) や地域のボランティアの方々などにもご協力をいただいているため、大学外部の方々との関係も大切にしながら行っている。

ウェルカムパーティーは、留学生同士、また留学生と日本人が交流することで、友達を作ることのできる場を提供することを



目的としている。軽食やおかし、ドリンクを楽しみながら、ゲームに参加したり、皆でダンスをしたりすることでお互いの距離を縮めることができる。

遠足は、留学生と日本人からなるグループで行動し、名古屋市内を案内して1日を楽しむものである。遠足を通して、日本の文化を知ってもらうことができる。

これらの受け入れ活動の最終目標は、わたしたち日本人が留学生と友達になることである。まずは留学生をサポートするわたしたちが、楽しんで受け入れ活動を行っていきたいと思う。

### 五月企画(5月)

文責 渡辺祥太

毎年五月に行っている留学生とのイベントであり、今年は「DICE TRIP」という企画をおこなった。これは、名古屋市の地下鉄路線図を使った大規模なすごろくゲームで、行く先々で与えられるお題を解いていく企画であった。グループは日本人と留学生の混合チームで作られており、初対面の留学生も多かったが、お題を一緒に考えていくうちに自然と仲良くなることができた。

五月企画は参加人数も多く、ACEが主催する留学生とのイベントの中では比較的規模が大きい方である。



### まじめ合宿(6月)

文責: 杉田貴広

まじめ合宿とは毎年6月の第二週の土日に行われるACEの合宿であり、ACEにとっての様々な節目やきっかけとして大きな役割を担う合宿である。

まず第一目的として、この日に代替わりが行われる。そこでそれまでの3年生の運営から2年生へと運営権が移りACEの新たな年が始まる。

続いて、新入生から始まり様々な学年が集い、交流を深めるということも合宿の大きな目的の



一つである。新入生にとっては知らない先輩や

同輩ばかりであり、ここでの交流がその後の仲の深まりに繋がっていく場合が多い。

更には新入生の歓迎という意味も持つ。7月に行われる七夕企画のチーフを、ACE ならではの経験をしてもらうため、そして、運営というものを体験してもらうために、毎年1年生がやっている。そしてそのチーフ決めがこの合宿内で行われる。

ただ、恒例の行事ということもあり、既存の上級生が盛り上がり、状況をうまく飲み込めない新入生が蚊帳の外にいるような心境を抱く場面もある。新入生はこの合宿をあまり覚えていないことも少なくない。その為次回はそういった点の改善を試みていきたい。

### 七夕企画(7月)

文責 伊藤滉太

今年は7月11日(土)に開催した。初めに七夕のエピソードを劇で紹介した後、かき氷、流しそうめん、短冊、川柳、鈴投げ(輪投げのようなもの)、水風船をブース形式で用意し日本の七夕や夏祭りに関する文化を紹介した。

実施した感想として、まず、参加者が昨年度に比べて大幅に減少したことを残念に感じた。Facebook などを用いた広報をより早めに行うなどの対策が必要である。実施内容に関しては、劇、かき氷、流しそうめんが非常に人気であり、良かったと思うと同時に、他の企画へ上手く人を分散させるための努力の必要を感じた。また運営面に関して、七夕企画は毎年一年生が主体となって行うものであるが、一年生間の協力や連絡が不十分であった。来年度は、一年生それぞれが周りを見て動けるよう、先輩の立場からサポートしたい。



### キャンプ(8月)

文責 朝日一輝

ACE の夏の一大イベントで、例年8月の夏休みに行われる。昨年はいにく台風のために中止となったため、今回は1年生にとっても2年生にとっても初めてのキャンプとなった。



た。約 50 人の ACE メンバーと、ゲストとして来てくれた留学生 1 人で向かった先は、愛知県は奥三河の新城市にある愛知県民の森。夏の日差しが川面で輝くキャンプ場内の川で水遊びや、頭も身体も使い夕飯の食材をかけて挑戦したレクリエーション、キャンプの定番カレー作りに、真夏の夜空の下でのキャンプファイヤーに、暑さも忘れるような肝試しと、枚挙に暇がないほどの楽しい夏の思い出作りをすることができた。キャンプの夜に見た流れ星のように楽しい時間は瞬く間に過ぎ、テントで一夜を明かした 2 日間のキャンプもあっという間に帰宅の途につくことになったが、これを通じてメンバーの仲は上級生下級生問わず、さらに縮まったように感じられた。

### 富士山登山(8月)

文責 寺岡 奈津未

毎年夏休みに、留学生と一緒に富士登山をする企画である。世界遺産に登録された、日本一の山をみんなで協力して登るため、達成感を味わうことができる。富士登山は決して楽なものではないが、山頂から見える御来光や雲の上から見下ろせる風景、澄んだ星空などは絶景であり、一生の思い出を作ることができる。

残念ながら、去年は暴風により、バスで富士山 5 合目まで行ったものの登山することができなかったが、間近で富士山を見ることができた。

みんなで協力して登る仲間がいる学生だからこそ、富士山に登るのは良い機会であるだろう。



### ハロウィンパーティー(10月)

文責 黒井麻由

ACE 主催のハロウィンパーティーでは留学生と日本人学生（名古屋大学・南山大学・金城学院大学など）が楽しみながら交流することを目的とする。今回は、Mei-dining を貸し切って行った。また、本年度は秋のウェルカムパーティーの開催が出来なかったため、お菓子だけでなくご飯も頼み、盛大に行った。参加者には自由に仮装をしてもらい、イベントとして仮装コンテストをエントリー制で行った。仮装コンテストも盛り上がり、それぞれ会話をしながら仲を深めることができた。

### 11月企画(11月)

文責 宗宮駿介

ACEのメンバー同士の仲を深めることを目的に今回、津への一泊二日の小旅行を実施した。皆の知らなかった一面を発見しよう、というテーマの元、ウォークラリーやクイズを通して結束力などを高め、さらに今後の国際交流の企画案としてグループごとに新たな国際交流イベントを考え発表した。6つの案の仲からうどんを作る企画が最優秀企画として選ばれ五月に留学生も呼んで開催することが決定している。

団体での移動ということでスケジュール通りにはいかなかったが、各企画をみんなで楽しむことができ、テーマであった他のメンバーの意外な一面を発見することが出来たのではないかと思う。この企画で高めたチームワークを今後の活動に活かしていきたい。

### 留学生の夕べ(12月)

文責 速水沙織

留学生の夕べとは、AFSA(愛知留学生会)という団体が毎年12月に名古屋国際センターで行っているイベントである。私たちACEは、名古屋学芸大学のICCや名古屋工業大学の学生と共に運営のサポートをしている。留学生の夕べでは、留学生が母国の文化を紹介しながら日本人と交流を図ることを目的としており、今年度は留学生による歌やダンスのパフォーマンス、各国の文化を紹介するブース、各国の料理を作ることができる料理教室などを設けた。今年度は様々な民族衣装を試着できるブースや、ヘナタトゥーの体験ができるブースや、ベトナムコーヒーを試飲できるブースなどが特に盛り上がりを見せていた。多くのお客さんが来てくださり、非常に楽しいイベントにすることができた。



### クリスマスイベント(12月)

文責 木村健吾

12月20日にアメニティハウスにて、日本人学生と留学生の交流を図るクリスマスイベントを開催した。4つのミニゲームにグループで挑戦し、合計ポイントに応じてサンタから景品をプレゼントした。特に盛り上がったのは、箸を使って小さなチョコレートを別の皿に移し替えるゲームだった。4人のリレー制で移し終えるタイムを競ったが、留学生の中にも箸の扱いが上手い人もいて、チームで応援しあいながら楽しめた。こういった体を動かすアクティビティは、何をしているかが一目瞭然であり、言葉の障壁を取り去るには最適だと感じた。最後にはフリートークの時間を設けて、新たな友人を作ることができた。一方で、遅れてきた参加者が自己紹介をする場面がなかった、自分のグループ以外の人も仲良くなる機会が欲しかった、といった意見もあったため、今後グループ形式のイベントを行う際の改善点としていきたい。

### 正月企画(1月)

文責 井上遼

1月5日に、東山レジデンスにて、留学生に日本の正月を体感してもらうための企画を開催した。内容としては、賽銭式で参加費を支払ってもらってからの初詣もどきや、かるた大会、餅つき、書初め、しめ縄づくりを行った。各企画自体は好評でよかった。今年の特徴としては高さ約2mの鳥居や、木で作った賽銭箱、そしてしめ縄づくりが挙げられる。例年行っている餅つきや書初めなども併せてとても楽しめたと思う。しかし、マニュアルやタイムスケジュールに問題があり、進行がうまくいかなかった点が反省である。次回に活かしたい。

### 3. 来年度に向けて

文責 形田怜央菜

本報告書を編集するにあたり、ある日のミーティングで、2015年度のACEの活動の印象をメンバーにアンケートをとった。出てきた意見として多かったものは、留学生との交流が楽しかった、というものや、昨年に比べ留学生との交流の機会が減ったように感じる、というものだった。たしかに、具体的な数字は判明しないが、七夕やハロウィンパーティーなどの毎年行っているイベントに関して、昨年度よりも留学生の参加人数が少なくなってしまった印象があるのは否めない。また、イベントを進行するにはチーフやサブチーフの存在が必要不可欠であるが、その役割を担う人がなかなか決定せず、昨年よりもイベントの開催回数が減少してしまった。つまり、ACEの実情として、イベント等を通じて留学生との交流を図り、それをメンバーは楽しんでいるのでサークルとしての目的は達成しているが、その裏側では留学生の参加数減少とイベント進行のための人材不足が進んでいる。

しかし、アンケートで出てきた意見の中には、ACEのメンバー同士での交流が活発であることや、イベント進行の役割を果たした後の自己成長と達成感の醍醐味を感じたな

どの意見も出てきており、サークル自体の雰囲気はとても良い状態であると思う。そこで、その良い雰囲気の中で、イベント進行の楽しさややりがいを後輩たちに伝えていくこと、そうしてより楽しいイベント作りをACE全体で考えていくことで、今後より多くの留学生のイベントへの参加や深みのある交流が可能になるのではないかと思う。

ACEのメンバーがACEの活動に求めるものは非常に多種多様であり、それがACEの活動を活発にしているのと同時に、実際に運営していく負担をメンバー一様に分散させられない、という結果を生んでいる。この課題はおそらくACEがこれまでも、そして、これからも抱え続ける課題であると思うが、この課題を出来る限り解消させるように働きかけていきたい。そうすることが、これまでの活動の良さを受け継ぎながら、より幅と深みを増した活動を行えるようになることに繋がると期待している。

名古屋大学留学生会

NUFSA

## NUFSA Annual Report in 2015

### What is NUFSA?

NUFSA is short for Nagoya University International Student Association (名古屋大学留学生会). The reason and passion for NUFSA to exist is to support international students in Nagoya University as well as to promote international awareness and cooperation. NUFSA is also working to enhance the cultural diversity and dialogue between international and Japanese students.

NUFSA aims to reach these goals by organizing events and activities for international students, with Japanese students being welcome to join as well! The events are done in collaboration with several other associations and clubs, which allows for NUFSA members not only to experience international ways of working but also a touch of Japanese way of organizing and working. Cooperation with other associations offers a brilliant platform for members to make new friends, regardless of nationality, and thus support the cultural exchange.

NUFSA is an association with long history. The association was established in 1985 and has held the passion for the international students ever since.



What year 2015 meant for NUFSA?

For NUFSA, the year 2015 was a year of reformation. NUFSA has a long history and we as members want the legacy of NUFSA to continue for years to come. Therefore, we felt there was a need for change, for refresh.

The world is rapidly changing, and to answer to this change, we accepted the challenge to keep up with the times. This required us to look back at the starting days of NUFSA and review the purpose of the association. During the review process, all members came to appreciate the association more, and to relish the long history and successful years and events of NUFSA.

Nagoya University is becoming more and more international and there are more international students than before. NUFSA, which stands for Nagoya University Foreign Student Association, felt that the word "foreign" does not represent the global population on campus and thus, entered the talks of, what if we address to the changing attitudes and instead of referring to students with various cultural backgrounds as "foreign", we use the word "international". After long and careful thinking, it was decided that the association would carry the name Nagoya University International Student Association in order to embrace the global and international student base we have on campus. However, the abbreviation would still remain NUFSA, as this name is well known and familiar at the university.

We took a look at the previous constitutions and felt that it is time for an update. So, members gathered to discuss the constitution and gave suggestions, debated, made changes and finally, came to a conclusion. Thanks to everyone's active participation, the new constitution was written and a new era came to be.



# EVENTS of 2015

## SPRING BAZAAR

Every spring, on the 2<sup>nd</sup> Saturday of April, NUFSA holds a bazaar for international students. This event is done in collaboration with ACE, Tomodachikai and YWCA.

The purpose of this event is to help international students to start up their lives in Nagoya University. Daily items needed for convenient daily life are sold for student-friendly prices. These daily items include pots, knives, stationery, plates, bowls, futons, furniture and electrical appliances. This spring we had some extraordinary items, such as samurai doll!



This event is very popular as most international students do not have furniture and other daily items when they come to Japan and this is a good chance to buy what they need. Bazaar is however, not only a place for buying frenzy, it is also a social gathering where students can meet new people and chat.

Sometimes, items are auctioned in the bazaar. This spring, bazaar received large TVs as donation from Kondo Sanko and in order to be fair for the buyers, NUFSA decided to auction the televisions.

## WELCOME PARTY

Welcome party was a week after the spring bazaar. The party is to welcome new students and create a place for new meetings and new friends. NUFSA offers the students a chance to have fun and enjoy snacks and some finger food while socializing and having fun.

## NUFSA room cleaning

This autumn, NUFSA members gathered together and spent some time together to clean NUFSA's headquarters. The cleaning process was part of the reformation. Old and unnecessary items were discarded, and some treasures from the old days were found. Pictures of the previous years of the association brought smile on the current members' faces. Those pictures represent the long standing history of NUFSA and give the members the motivation to keep the association nice and shining.



## AUTUMN BAZAAR



Autumn bazaar is held every year on 2<sup>nd</sup> Saturday of October. Just like spring bazaar, this event is very popular among new students. Many people participate and leave the event happy. NUFSA holds a lottery for bicycles during the bazaar and the lucky ones can cycle home!

Autumn bazaar 2015 was very successful event thanks to the close cooperation between several associations and clubs, not to forget the customers who made it fun for members as well!

## **OTSUKARESAMA PARTY**

NUFSA organized a thank you party for ACE members for always helping NUFSA and providing support for the members. In this party, NUFSA and ACE members became closer through fun games and chatting.



## **JAPANESE COURSES**



Japanese language courses are organized for Nagoya University students and their family members as part of supporting the integration process of the international residents of Nagoya University.

The Japanese courses are supported by Nagoya Lions club, they generously purchase the textbooks used in the class as well as provide the language teachers. In order for the family members of the Nagoya University students to truly being able to concentrate on the language studies, baby sitters are playing with the children in another room to allow for full concentration during class time.

## **BONENKAI PARTY**

This autumn, NUFSA decided to hold a bonenkai party instead of Welcome party. In the bonenkai party snacks, finger food and drinks were offered. It was a fun party, where both the members of NUFSA as well as the customers were able to enjoy good music and open socializing.



## DO YOU WANT TO JOIN NUFSA'S ACTIVE TEAM?

Like and follow our page in facebook and keep an eye on our posts.

We will start recruiting new members in 2016!



名古屋大学グローバルネットワーク  
国際交流グループ  
2015年度 活動報告書

発行日 2016年3月31日  
発行 名古屋大学国際教育交流センター  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
Tel 052-788-6117